

日本臨床検査専門医会 2023年度 第1回理事会議事録

開催日時：2023年5月27日（土曜日）15時～16時45分

場 所：日本臨床検査専門医会事務局・ZOOMによるWeb会議

出席者：〆谷直人理事長，山田俊幸副理事長，東田修二庶務担当，増田亜希子会計担当，
菊池春人，福地邦彦，松下一之，田部陽子，各常任理事
藤井聡，浅井さとみ，山田鉄也，尾崎敬，北中明，橋口照人 各理事
古川泰司，監事（いずれもWebによる出席）

欠席者：横崎典哉，五十嵐岳 各常任理事，植木重治 理事，東條尚子 監事

事務局：大和田有美子

Web会議システムにより，出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり，的確な意見表明ができることが確認されたため，定刻，〆谷理事長は議長となり，開会を宣し，議事に入った。

<報告事項>

1. 各種委員会報告（前回理事会以降の報告）

1) 情報・出版委員会

福地委員長により，添付資料1に基づき報告があった。2023年3月に発行されたJACLaPNEWSでは，第2回年次大会会長木村先生を巻頭言とし概要掲載のほか，賀来満夫先生による「臨床検査医学への提言」，委員会報告，事務局報告，会員の声などを掲載した。ホームページにも掲載済。次号は7月に発行予定。JACLaPNEWSの有効活用を期待したいとの発言があった。続いて学会誌LabCPについて40巻，2022年2号が同じく3月に発刊され会員に送付済みであることを報告した。メディカルオンラインでも閲覧可能である。2023年1，2号も資料の通り，予定が組まれている。日本臨床検査所協会協会誌ラボの担当ページについても資料の通り，引き続き掲載予定。すでに各担当の先生へ依頼済。JACLaPWIREについては，東條先生から情報を受けた新規掲載項目について，情報を発信しており，270～272号を配信した。また，「臨床検査専門医会要覧2022」の発刊・郵送が完了したことを報告したうえで，記事の掲載に多大な貢献があった〆谷理事長，山田副理事長への謝辞を述べた。余剰分は，新入会員に配布予定。なお，要覧の作成要領につき，引継ぎ事項をまとめると結んだ。〆谷理事長もこれらの発言に賛同した。

2) 教育研修委員会

田部委員長により，添付資料2に基づき報告があった。2023年度教育セミナーは現在オンデマンド配信中。9名の講師による講義資料・動画提供のほか，2名の合格者体験談で構成。今年度はリマインドメールを，専攻医を抱えている施設の担当責任者の先生方に送付するなどの試みを行い，70名を超える受講者が参加，それに伴い専門医会への入会者も増えた。今後も，講師の入れ替えなども含め活動を広げていきたいと述べた。

日本臨床検査専門医会第2回年次大会時における，生涯教育講演会では資料の通り，

米川先生, 佐守先生に講演を依頼している。

3) 資格審査・規定改定委員会

菊池委員長に代わり議長より, 添付資料 3 に基づき前回理事会以降, 29 名の新入会員を審査し, 全員承認し理事長へ承認依頼をした旨報告があった。1 名だけ, 一度退会し再度入会申請という稀なケースがあったが, 同様に審査し承認した。

4) 広報・ネットワーク委員会

五十嵐委員長に代わり, 東田庶務担当常任理事が添付資料 4 に基づき報告をした。3 部門体制で活動をしている。レジデントノート部門では, 引き続き羊土社レジデントノートに連載をしている。ネットワーク BBS 部門では, 掲示板を気軽に利用してもらえるような環境づくりを進めている。イベント部門では, 厚労省霞が関こども見学デーや, JACLaS EXPO への参加などの企画を予定している。引き続きイベント部門長の尾崎理事より, 霞が関こども見学デーについて, 追加の資料を示し説明があった。コロナ渦中では実施されていなかったもので, 2019 年度開催を参考に企画。東京近郊の専攻医に協力を呼び掛ける。協力した専攻医に, 専門医会で参加証を発行, 専攻医プログラムの単位として認められる。

5) 渉外委員会

横崎委員長に代わり, 東田庶務担当常任理事が添付資料 5 に基づき報告をした。第 40 回振興セミナーが 7 月 27 日より, オンデマンド配信で開催される。プログラムは資料でしめした。また, 全国検査と健康展は例年通り, 日本臨床検査衛生検査技師会と協力し, 実施予定。

6) 保険点数委員会

松下委員長より添付資料 6 に基づき, 令和 6 年度診療報酬改定に向けて, 現在, 専門医会, 検査医学会, 振興協議会が合同で意見を調整しているとの報告があった。役割分担をして要望をまとめている。先日, 厚労省のヒアリングを経て事務手続きに沿って進めている。今回, 東條先生, 古川先生より多大な指導を受けていることへの謝辞が述べられた。資料に示す通り増点の他, 変更, 除外の要望もまとめており, 現状は予定どおりに進行している。

2. 第 2 回年次大会の準備状況について

木村会長より, 添付資料 7 に基づき報告があった。WEB にて参加受付を始めているが, 現時点では申込数が少ないため, 理事の先生方に周囲への呼びかけを依頼した。プログラムは添付資料の通り。1 日目は教育研修委員会主催の生涯教育講演会, 2 日目キャッチアップ遺伝子検査と題し, 一日いると遺伝子検査の初歩から現状までがキャッチアップできるように企画をしている。懇親会も久しぶりに開催できると思っている。メ谷理事長より, 抄録の発行時期について質問があり, 木村会長より 1~2 週間以内には発行予定との回答があった。

3. 第 3 回年次大会の準備状況について

尾崎次期会長より、添付資料 8 に基づき報告があった。2024 年 6 月 29・30 日の土日で開催。ホテルや交通機関の混雑が予定される。プログラムの予定は添付の通り。懇親会も予定。熊野の偉人である、南方熊楠記念館の館長にワークライフバランスについての講演を企画予定。参加者へは懇親会の値段と、シャトルバスの使用料自己負担について協力を依頼し負担の軽減を図りたい旨相談があった。その点も含め、早めにホームページを立ち上げて PR をしたい。メ谷理事長より、趣意書の作成などを工夫し、企業主催の学術講演を作るなど、協力を依頼する方法について教示があった。また、どうしても赤字が出そうな場合は学会本部に相談するなど自己負担が無いようにとの補足があった。また、増田会計担当常任理事より、資料に示された予算の中で、配信費が高額なことについて指摘があり、すべてを一つのコンベンションに任せるのではなく、部分的に業者を選択するなど、費用の削減の余地があるのではないかとの意見があった。

4. 賛助会員の追加

メ谷理事長より、添付資料 9 に基づき 2023 年度から新規賛助会員として島津ダイアグノスティックス株式会社の入会があったとの報告があった。

5. 日本検査医学会学術集会時の共催シンポジウムについて

山田副理事長より、今年長崎で行われる日本検査医学会学術集会時の共催シンポジウムについて、松下理事に企画を依頼した旨報告があった。

<審議事項>

第一号議案 2022 年度決算・事業報告の承認

議長は 2022 年度決算・事業報告に、東田庶務担当常任理事、増田会計常任理事に説明を求めた。初めに東田常任理事より、資料 10 に基づき事業報告がなされた。続いて、増田常任理事より正味財産増減計算書が示され、予算と乖離のある費目についての説明があった。年次大会の決算が任意団体時代と違い、本部決算に組み込まれることになっている。また、年次大会時に開催される生涯教育講演会の収入が前年度は年次大会収入に組み込まれていたもので、予算計上はしなかったが、今年度は支出計上を年次大会と別にしたため、収入も別計上となっている。以上が、収入についての説明となった。支出に関しては、まず、庶務経費に関して、事務局内の引継ぎにより人件費が増えているが、次年度以降は例年通りに戻ると説明された。事業経費の中で最も予算との差異があるのは、印刷費であるが、そもそも計上時に近年もっとも経費計上も少ない年を参考にしてしまったことが原因であり、今年度 JACLaPNEWS や LabCP が規定数出されていることを鑑みると、支出として特に多いわけではないとの説明があった。また、要覧作成費に関しては送料の関係等で予算より多くなった。収支につき、今年度は約 170 万円の赤字であるが、今後、人件費が削減されること、会員・賛助会員が増え会費の増収がみこまれること、しばらく要覧作成費用が無いことなどの理由で、次年度以降はここまで大きな赤字は無いと予想されるとの説明があった。続いて、貸借対照表を示し 2023 年 3 月 31 日時点での本会財産が報告された。メ谷理事長より振興セミナーの対面開催について企業より要望があるが、予算的に厳しいかとの質問があった。増田常任理事より、現状厳しいが、会費収入などがしっかり入れば、検討の余地もあり、2023 年度

